

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, August, 2007

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

8月の状況 (佐藤)

☆ C/2006 VZ₁₃ (LINEAR)

OAA 彗星課メーリングリスト(oaa-comet ML)に、次のように報告があった。

吉田誠一氏は、8月5日、「ハワイ・オアフ島、ココ・ヘッドの麓での彗星観測です。ハワイ島コナは、朝は快晴なのですが、高い山があるため、日中には雲が出てしまいます。コナは、ヒロのように雨ばかりではないのですが、それでも夕方は雲に覆われてしまいます。初日のみ晴れましたが、コナの街はかなり明るく、街中で彗星は見えませんでした。…」と旅行先のハワイに持ち込んだ単眼鏡で観測した。

10日には、芸西天文台の関課長が、「久しぶりの C/2006 VZ₁₃ の眼視観測です。夕空の西南に低いので少し条件は悪かったのですが、シーイングが抜群によく、300×で見る恒星は綺麗な静止した点像でした。これがもし冬ならかってアメリカのエヴァハートがやっていたように、40cmの銀塩による撮影で21.5等まで写したように、60cmの極限まで写ったかも知れないという、物凄い安定像でした。…」と報告された。また同日、熊本市の宇都宮章吾氏は、「…日中より快晴で、今夕の、C/2006 VZ₁₃ (LINEAR)の眼視報告です。2日前の8日は薄雲があり、スーパーナビゲーター(座標表示器)が壊れたこともあり15cm双眼鏡では見えませんでした。ナビゲーター無しの搜索、観測は、お手上げでした。今夕は、予備のものに取り替えて観測できました。7cm双眼鏡でも低空にもかかわらず分るため、9等より少し明るいと見ました。…」とコメントを寄せた。

14日、関課長は「…C/2006 VZ₁₃は夕方の地平線に近いので、あといくらか観測出来ません。ドンドンと南下していますので、果たして今夜か明日観測出来るか、一応覗いてみます。一時コマが三角に見えたと言うことでしたが、芸西の写真では認められませんでした。依然核の確りした丸い彗星状です。」とコメントされ、更に翌15日には、「超低空になって見かけはとても暗く感じるようになりました。」と報告された。

以上のように、8月中旬まで夕方の西天低く見えていたが、その後は視界から消

えていった。10 月下旬には明け方の南東低く昇ってくるが、その頃は既に眼視で捉えるのは難しくなるだろう。

眼視による観測が次のように報告されている。

2007	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Aug.	2.28	8.2	10'	4	-	-	-	-	10×6.6cmR	吉田誠一	
	9.47	8.5	4	6	-	-	3/5	5/5	60×20cmR	関 勉	
	10.48	8.8	2	5	-	-	3/5	4/5	16×7cmB	宇都宮章吾	①
	14.47	8.9	3	6	-	-	4/5	5/5	60×20cmR	関 勉	

* Note: ① 25×15cmB 併用

彗星の発見・同定は次のとおり。

- ☆ C/2007 P1 (McNaught) 8月7.72日 UT、R. H. McNaught は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から彗星を発見した。この彗星は、ほとんど集光がなく、測定も難しく、彼が覚えている観測で最も拡散したものであった。(IAUC 8861, 2007 August 9)
- ☆ C/2007 Q1 (Garradd) 8月21.65日 UT、G. J. Garradd は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から少し拡散した彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、幾人かの CCD 観測者によって観測された。(IAUC 8863, 2007 August 24)
- ☆ P/2007 Q2 (Gilmore) 8月22.58日 UT、Alan C. Gilmore は、Mount John 大学天文台の 1.0-m 反射望遠鏡で得た画像から小惑星状の天体を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、幾人かの CCD 観測者によって彗星であることが判明した。(IAUC 8865, 2007 August 30)
- ☆ C/2007 Q3 (Siding Spring) 8月25.76日 UT、D. M. Burton は、Siding Spring サーベイのコース上に 0.5-m 反射望遠鏡で得た画像から小惑星状の天体を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、幾人かの CCD 観測者によって彗星であることが判明した。(IAUC 8865, 2007 August 30)
- ☆ P/2007 N1 = 2000 P3 (McNaught) 7月に発見された P/2007 N1 が 2000 年 NEAT と LONEOS によって見つかった小惑星状天体と同一であることが、OAA 計算課長の中野圭一氏によってわかった。(MPEC 2007-R04, 2007 September 1)

その他比較的明るい彗星は、P/2007 H1 (McNaught) などであった。